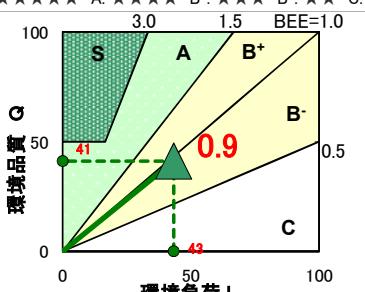
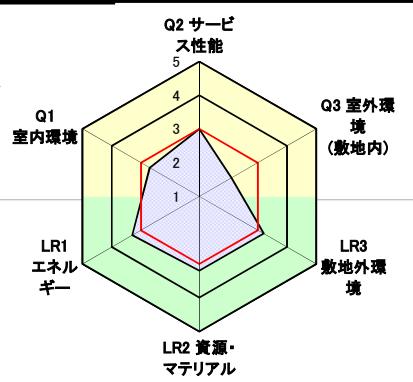
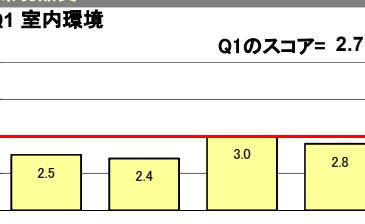


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	西浅田共同住宅 新築工事	階数	地上10F
建設地	静岡県浜松市中区西浅田二丁目81	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内市街化区域	平均居住人員	65 人
地域区分	6地域	年間使用時間	20,440 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、集合住宅、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年5月 予定	評価の実施日	2023年3月9日
敷地面積	1,004 m ²	作成者	早野 真介
建築面積	310 m ²	確認日	
延床面積	2,109 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
BEE = 0.9 ★★☆☆☆	S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★★ B-: ★★★ C: ★★	30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆	Q2 サービス性能	Q1 室内環境	
					
標準計算	①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+	100% 91% 91% 91%	Q3 室外環境 (敷地内)		
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したもの					LR1 エネルギー
					LR3 敷地外環境
					LR2 資源・マテリアル

2-4 中項目の評価(バーチャート)		Q のスコア = 2.6	
Q 環境品質	Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.7	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.0	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 2.1
LR 環境負荷低減性	Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.7	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.0	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 2.1
LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.3	2.5 2.4 3.0 2.8	3.1 3.1 2.9	1.0 3.0 2.0
LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2			
LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2			

3 設計上の配慮事項		その他	
総合	これは、CASBEE静岡2021(Ver1.0 SDGs評価なし)による評価である。	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)	
住宅部分の星光率1.30%を確保し、上階バルコニー(底の代用)やカーテンを用いることにより、室内において星光を制御しやすくした。 また、タイル貼の耐用年数は40年	階段は住戸部分2.96m、事務所部分3.36mとし、階高に余裕をもたせた。	景観条例に適合させ、周囲と調和するように配慮した。 また、敷地の51.7%を空き地とし、風の通り道を確保した。	
LR1 エネルギー 建築物省エネ法におけるBEI=0.90とし一次エネルギーの消費を抑えた。 また、各階EPSに、各住戸の電力量計がある。	LR2 資源・マテリアル 節水の為、建築物内の便器は超節水型便器を採用した。 また、軸体以外の材料に、特定調達品目を5品目使用している。	LR3 敷地外環境 隣等間隔指数0.42を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいようにした。 ゴミストッカー等を使い、ゴミの多種分別が可能なスペース及び回収BOXを計画し、ゴミが減量されるよう計画した。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	西浅田共同住宅 新築工事	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★
------	--------------	-----	-----	--------	----	----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.2	/5	ふつう
"災害に強いしづおか"の形成 (Disaster)	3.0	/5	ふつう
"しづおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.5	/5	がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.4	/5	がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について記述した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目											
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点											
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ③住宅部分の昼光率1.30%を確保し、上階バルコニー(庇の代用)やカーテンを用いることにより、室内において昼光を制御しやすくなった。 ④タイル貼の耐用年数は40年		Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥敷地の51.7%を空き地とし、風の通り道を確保した。		Q-2	2	2.2	2.2.1	④	昼光制御	3.2	3.2.1	③	2.2.2	④	躯体材料の耐用年数
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨建築物省エネ法におけるBEI=0.90とし一次エネルギーの消費を抑えた。 ⑩各階EPSに、各住戸の電力量計がある。		Q-3	1			⑤	外壁仕上げ材の補修必要間隔	3	3.2	⑥	2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水の為、建築物内の便器は超節水型便器を採用した。 ⑫躯体以外の材料に、特定調達品目を5品目使用している。		LR-1	1			⑦	空調換気ダクトの更新必要間隔	2		⑧	2.2.4	④	空調・給排水配管の更新必要間隔
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水の為、建築物内の便器は超節水型便器を採用した。 ⑫躯体以外の材料に、特定調達品目を5品目使用している。		LR-2	1	1.1		⑨	主要設備機器の更新必要間隔	2.1		⑩	2.2.5	④	主要設備機器の更新必要間隔
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水の為、建築物内の便器は超節水型便器を採用した。 ⑫躯体以外の材料に、特定調達品目を5品目使用している。		LR-2	2	2.1	2.1.2	⑪	生物環境の保全と創出	2.2		⑫	2.2.6	④	敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑯ライフサイクルCO2排出率を、一般的な建物の91%となるよう設計した。 ⑯隣等間隔指数0.42を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいうようにした。		LR-3	1			⑭	建物外皮の熱負荷抑制	2	2.2	⑮	2.2.3	④	自然エネルギー利用
"災害に強いしづおか"の形成(Disaster)		得点										3.0	
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰電気設備・通信設備ともに、浸水する危険性がない。		Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	設備システムの高効率化	2.1.2		⑰	2.4.1	⑪	モニタリング
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰電気設備・通信設備ともに、浸水する危険性がない。		Q-2	3			⑯	運用管理体制	2.4.2		⑱	4.1	⑫	運用管理体制
"しづおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点										2.5	
■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑯心理性・快適性/⑯空間のゆとり) ⑯階高は住戸部分2.96m、事務所部分3.36mとし、階高に余裕をもたせた。		Q-2	1	1.1	1.1.3	⑯	ユニバーサルデザイン計画	3	3.1	⑯	3.1.1	⑯	階高のゆとり
■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑯心理性・快適性/⑯空間のゆとり) ⑯階高は住戸部分2.96m、事務所部分3.36mとし、階高に余裕をもたせた。		Q-2	3			⑯	空間の形状・自由さ	3.1.2		⑯	3.1.2		空間の形状・自由さ
■室外環境(敷地内)対策 (⑯地域性・アメニティへの配慮) ⑯1階共用部に防犯カメラを設置し、防犯性に配慮した。		Q-3	3	3.1		⑯	地域性への配慮、快適性の向上						
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点										2.4	
■室外環境(敷地内)対策 (⑯生物環境の保全と創出/⑯まちなみ・景観への配慮/⑯敷地内温熱環境の向上) ⑯景観条例に適合させ、周囲と調和するように配慮した。 ⑯敷地の51.7%を空き地とし、風の通り道を確保した。		Q-3	1			⑯	生物環境の保全と創出	2		⑯	3.2	⑯	まちなみ・景観への配慮
■敷地外環境対策 (⑯持続可能な森林から産出された木材/⑯温熱環境悪化の改善) ⑯隣等間隔指数0.42を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいうようにした。		LR-2	2	2.5		⑯	敷地内温熱環境の向上	LR-3	2	2.2		⑯	温熱環境悪化の改善